

日本医学会分科会活動報告

学会名(No.118)日本磁気共鳴医学会

代表者名 阿部 修

I. 医学および医療の水準の向上への貢献が日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会の独自の活動を以下に留意して記載をしてください。

a. 特に学術的に重要と考えられるもの

本学会は医師、基礎研究者、診療放射線技師など多様性に富む 3,600 名前後の会員を有し、現在年 1 回の学術大会を開催している。最近の大会では、参加者は 1,800 名前後を数え、400-500 件程度の研究発表および臨床・基礎に関する教育講演が行われている。学会誌として日本磁気共鳴医学会雑誌および Magnetic Resonance in Medical Sciences (MRMS) を季刊 (各年 4 冊) 発行している。MRMS 誌は、PubMed および J-STAGE での検索ができ、各論文は J-STAGE および本学会ホームページよりダウンロード可能となっている。また MR 入門講座、MR 基礎講座、MR 先端/実践講座を年 1 回、安全性講習会を年 3-4 回開催すると共に、磁気共鳴医学用語解説集や MRI 安全性の考え方などの書籍の発行、スタディグループに対する研究支援なども行い、会員のみならず非会員への教育・学術事業を展開している。

b. 当該領域における国際的な役割

国際磁気共鳴医学会 (ISMRM) の下部組織である Japan Chapter と密接な連携を取っており、2021 年以降の学術大会では、Japan Chapter との共催セミナーを実施している。アジア磁気共鳴医学会 (ASMRM) とも密接な関連を有し、2021 年度大会では ASMRM との合同開催を行った。またこれまでの大会でも、韓国磁気共鳴医学会 (KSMRM) との共催セミナーを企画・実施する一方、ASMRM および KSMRM の学術大会においては共催セミナー講師として会員を派遣してきた。ASMRM では理事 31 名中、本学会から 6 名の理事を輩出している。また上述の MRMS 誌の 2022 年度のインパクトファクターは 3.0 と右肩上がりの発展を遂げており、国際的にも磁気共鳴医学における質の高い研究発表の場として注目を集めている。

c. 活動からもたらされる社会的な意義

現在医学医療において欠かすことの出来ない MRI の基礎医学的発展およびその臨床的な展開に、学術大会・教育講座・学術雑誌発刊などを介して寄与している。最近では保険診療において求められている、MRI 装置の適切な安全管理に関する指針や MRI 対応植込み型デバイス患者の MRI 検査に関するガイドライン、アルツハイマー病の抗 A β 抗体薬の投与に関する脳 MRI 診断指針を策定し、医療機関における医療画像の撮影、診断及びそれらの管理が適切に実施されることを推進し、すべての国民がより安全に医療画像を利用できる環境を構築することに寄与している。

d. 学会運営上留意している点

本学会には放射線科医をはじめとした医師、MR に関する基礎研究者、診療放射線技師など多彩な会員が所属しており、これらのバックグラウンドが異なる会員の学際的活動を活性化するとともに、そのた

めの要望や期待に応えられるよう、理事や代議員の定数配分に配慮している。また多様性を重視し、理事・代議員や学術大会等での座長・講師に一定数女性を配置する試みを継続している。

II.日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会と他の分科会との連携による活動を記載して下さい。

画像診断管理加算の施設基準で規定されている MRI 装置の適切な安全管理および全身 MRI に関する指針について、日本医学会の分科会の一つである日本医学放射線学会と密接に連携しながら策定した。さらにその指針を遵守している施設を認定する事業も日本医学放射線学会と協働して行っている。また学術的根拠に基づき医学・医療の進歩を国民皆保険制度の下にある社会保険診療に取り入れ、医療の現場に還元し、その診療報酬の適正化を促進するために、日本医学放射線学会・日本放射線腫瘍学会・日本核医学会などと共同で一般社団法人内科系学会社会保険連合および同・外科系学会社会保険委員会連合に提案を行っている。